

# ひなたぼっこ通信

2017年  
4月号

## 宅幼老所から

「春の知らせ」

3月に入ってから厳しい寒さも和らぎ、気温も少しずつではありますが上がってきましたね。宅幼老所の玄関先ですと春を待っていた福寿草が、今年もまた花を咲かせました。

この福寿草は、去年ある利用者様からいただいたもので、黄色くてかわいらしい花をご覧になった利用者様は、

「春だねえ〜」「綺麗だねー」「かわいく咲いてるじゃん！」と言われ、笑顔がこぼれました。

福寿草の花言葉は”幸せを招く”だそうです。今年もひなたぼっこにたくさんの方の幸せを運んでくれるといいな〜と思いつつ、毎日福寿草を眺めています。



## 「調理のお手伝い」

宅幼老所では、お料理が好きな利用者様には調理のお手伝いをしていただいております。先日は落花生の殻むきや、すり鉢でする作業を手伝っていただきました。

こちらの写真は、たくさんある落花生を利用者の皆様で協力してむいていただいている様子を写したものです。ずっと集中して手を動かされているため、作業の途中で疲れたら落花生を一口パクリ！「おいしいねー」と笑って言われていました。すっていたいだいた落花生は当日のお昼ご飯に使用し、ほうれん草と和えておいしくいただきました。

自宅でも一人暮らしをされている利用者様もいらっしやるので、包丁を使って野菜を切っていたり、大根をおろしていただいたり、いろいろな作業をお願いすることで、これからも自宅での調理を続けていけるようお手伝いをしていきたいと思っております。

## ケアハウスから

「インフルエンザ！」1階



今年に入って一番大変だったのはインフルエンザの感染があったことです。利用者様やスタッフ数人が感染しました。

そこで、職員が一丸となって対策を講じました。ラジオ体操やボランティアの方々による行事などを一時中止としました。お食事以外はなるべく自室にいていただくようにしました。外出や、外からの来訪も出来る限り減らし、外との接触を控えるようにしました。また、手洗いの励行をはじめ、

湿度の調整、一日数回の換気、上履きの消毒などの対応をしました。

高齢の方も多く、人数も多いために心配しましたが、努力の甲斐あって、数人の発症のみでそれ以上の広がりを防ぐことができました。これからの良い教訓も引き出せました。

桜の開花の話もちらほらと耳にするこの頃、春が待ち遠しいですね。

寒い冬を乗り越えました。これからも、一日一日お元気で、仲良く過ごさせていけたらいいと思います。(み)



「いったん止まって、見て、感じて、行動」2階  
私が介護の仕事に携わってからの6か月が経ちヘルパー資格は取得したものの、自分の仕事を確認するまもなく覚えることが山積していました。

そんな最中、先輩の仕事ぶりや利用者への対応を改めて見学する機会がありました。自分の仕事ぶりとは大きく違う事に気が付きました。基本に戻ることを恐れ、助言を下さる方に言い訳をし、傲慢になっていた、今の自分を自覚した時でもありました。

少し慣れてきた今、これではいけないと、態度や行動を改めなくてはいけない、そうしないと、間違ったことをやり続けてしまうとと思いました。そこで、「先輩のように良い介護をするためにはどうしたらいいのか」と先輩に悩みを打ち明けまし

た。先輩は「良い本を貸してあげるよ。」と「ユマニチユード」という本を貸してくれました。半信半疑で「自分にはまだ早いかあって、なんとなく途中からペラペラと読んでみました。ユマニチユードの基本、「見つめる」「触れる」「話しかける」「立つよう支援する」というフランスで発祥した認知症ケアの方法だったのですが、一見私が行うには、かなりハードルが高い方法と思いつつも、そういった技術や考え方を自分のものにできれば、きつと利用者の皆さまの利益になるかもしれない・・・ならばやってみようと思いました。

まだまだ走り始めたばかりですが、出来るところから始めてまいりますので、宜しくお願い致します。最後に、協力して下さる職場の仲間の皆さまに感謝いたします。(か)



### グループホームから

「春ですかあ？！冬ですかあ！？」1階  
福を招く黄色い大輪花「福寿草」があちこちでも見事に咲いています。1階では、春を運ぶ「ふきのとう」がついに食卓に並びました。「ご飯がすすむねえ。」と言いながら、春の山菜料理ふき味噌の美味しさを堪能しました。

「もう少ししたら陽気がもっと暖かくなって「桜」も見れますね。」なんて言ってる矢先、3月21日富士見は雪が降りましたあー！「ざんざか

ふってるわあ。」ご利用者の方の驚いた声。テレビでは、東京都心でソメイヨシノの開花のニュースをやっていました。ふきのとうと雪のコラボ。少しずつ心の準備をしてほかほか陽気の春を待っている皆さんです。

- ・ふき味噌や 爺婆いつも 心の中に
- ・春の雲 わが子は二人 湖近く
- ・吾の部屋を 空けて味噌玉 吊るしをり
- ・味噌炊きの 思い出話 はずむ日よ
- ・友がいて やさしく肩を 撫でる春
- ・青空や 親子でゆきし 春のハケ岳

### 「早咲きの桜」2階

まだ寒さがつづく、3月中旬、2階の廊下に早咲きの桜が咲きました。と言っても折り紙でつくった桜ですが・・・職員とご利用者様の共作です。写真でご覧いただけます。桜の樹だけでなく、2階のいたるところに桜をちりばめ「一足はよい春」を感じていただきました。ぜひこの早咲きの桜の花見にお越しください。



割

### 保育士募集！

新規事業開設に伴い保育士募集中です。  
常勤、パート詳しくはご連絡ください。  
連絡先 本部事務所(電話 61-2335 森)

介護保険の、利用者負担増が急ピッチです。2000年に介護保険が発足して、ずっと利用者負担は1割でした。ところが、一昨年の8月に「一定の所得以上(単身者で年金収入等280万円以上)の人の2割負担が導入されました。厚生労働省は「余裕のある人が対象」と説明しましたが、例えば介護施設運営者でつくる「21世紀・老人福祉の向上をめざす施設連絡会」が最近発表した調査結果によると「支払い困難を理由に退所」した人がいたのは101施設にのぼり、「利用料の滞納」をした人がいたのは206施設もあったことが分かりました(1589特養から回答)。入所すること自体が困難な特養を、負担増によって退所を余儀なくされるとは、利用者にとっても家族にとっても辛い仕打ちです。

その現状をみれば、直ちに全員を1割負担に戻すべきですが、今の政権は現在2割負担の45万人のうち、年金収入等が340万円以上(単身世帯)などを3割負担にするなどとしています。財務省は「介護保険は原則2割負担」を繰り返して求めています。道理のない、利用者負担増をきっぱり中止するよう声を上げていかなければなりません。

発行 社会福祉法人ひなたほっこ

理事長 森 正明

〒399-0211

富士見町富士見11650-1

TEL 0266-61-2335

FAX 0266-61-2336